

苗場山麓ジオパーク学術研究実施報告書（鑑文）

平成31年1月31日

団体名（所属） 菅沼を考える会

代表者名（氏名） 涌井 泰二

1 研究の名称

廃村から再び森へ Part 4 ～2018年度菅沼自然環境調査報告（4年次）～

2 研究のテーマ

約45年前に廃村になった旧菅沼集落において、動植物や水文環境を津南町の他地域とも比較しながら調査することで、その希少性と多様性を明らかにしようとした。（継続調査）

3 調査・研究等の日程と概要（調査区域や地点・調査方法など）

※これまでの実績と今後の予定

日程	主な調査・研究等の概要
平成30年4月 ～ 平成31年1月	過去3年間の調査結果と課題をもとに、春季から初冬まで菅沼集落跡周辺において、定期的な現地調査を中心としながら、主に以下の調査を行った。なお、2018年の調査でも、実験を伴う調査や津南町の他地域との比較調査も一部実施した。 1 菅沼地域のトンボ類相に関する調査 2 菅沼地域におけるカワトンボ属に関する調査 3 菅沼集落跡の希少生物（チャイロカワモズク）とその周辺の水文環境調査 4 菅沼地域の養鯉池跡等における魚類調査 5 水田跡の赤さび水の分布調査

4 調査・研究結果（概要）

菅沼地域のトンボ類相については、津南町・栄村の他地域と比較しながら5月から10月まで定期的な調査を行った。その結果、本年度新たに確認した4種を加え、この4年間で菅沼地域において確認したトンボ類は32種に上った。菅沼地域は養鯉池跡や溪流、湿地などがコンパクトな範囲にあり、豊かなトンボ類相が見られる場所であることを確認できた。

カワトンボ属2種（ニホンカワトンボ、アサヒナカワトンボ）の調査では、昨年度に引き続き菅沼地域と津南町の他地域を比較調査した。その結果、津南町のカワトンボ属2種の分布状況がよりはっきりとしてきた。津南町の平地部と比べて、菅沼という津南町の北方高地に、平地部では劣勢となっているニホンカワトンボが高率で現存することがより明らかになった。

希少種のチャイロカワモズクについては、水路の岸辺の草刈り等による実験及び定期的な水量測定等により、その個体数が、水路の日当たりや出水等による掃底作用に大きくかわってることがよりはっきりした。また、光環境を整えることによって、これまでチャイロカワモズクが見られなかった場所でも、多くの個体が発生することが確かめられた。

本年度の調査では、集落奥にある調査湿地EG-1に、4か月間にわたってセンサーカメラを設置し、大型獣の進入状況を調査した。その結果5種類の動物の進入を確認できた。特にニホンジカとイノシシは今後、トキソウやミツガシワなど湿地の貴重な植物の保全にとって大きな脅威となることが懸念される。

魚類調査では、3箇所の養鯉池跡等で罟による捕獲を試みたが、魚類は皆無であった。また、水田跡の赤さび水の分布とその流れをおおよそ明らかにすることができた。しかし、赤さび水と水田跡への樹木の進入が少ないこととの関係は、依然謎である。

※調査・研究結果がわかる資料を添付してください。